

CASBEE® 新潟 | 評価結果 |



- 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築（新築）2016年版
- 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.1

1. 建物概要

建物名称 建設地 用途地域 建物用途 竣工年 敷地面積 建築面積 延床面積 階数 構造 評価の段階 評価の実施日	(仮称)東日本旅客鉄道株式会社 新潟支社ビル 新潟県新潟市中央区花園1-1-6 商業地域、準防火地域 事務所, 2020年11月 予定 3,296.79 m ² 1,601.92 m ² 11,296.55 m ² 地上8F S造 実施設計段階評価 2018年8月21日	
---	---	--

2. CASBEE新潟の評価結果

	A	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{60.5}{40.2} = 1.5$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

項目	平均スコア	評価アイコン	項目内容	評価項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全に使い続けるために	3.6		バリアフリー計画	Q2.1.1.3	3.0
			維持管理	Q2.1.3	4.5
			設備の更新性	Q2.3.3	3.2
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産を守るために	3.2		耐震・免震・制震・制振	Q2.2.1	3.0
			信頼性	Q2.2.4	3.4
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのために	2.0		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1	2.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	4.5		建物外皮の熱負荷抑制	LR1.1	5.0
			自然エネルギー利用	LR1.2	4.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	4.3		節水	LR2.1.1	4.0
			躯体材料以外でのリサイクル材の使用	LR2.2.4	4.0
			部材の再利用可能性向上への取組み	LR2.2.6	5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために	2.5		生物環境の保全と創出	Q3.1	2.0
			敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2	3.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の個性や魅力を活かしたまちづくりのために	4.0		まちなみ・景観への配慮	Q3.2	3.0
			地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1	5.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

- ・長寿命化への取組み: 建物の耐久性や設備のメンテナンス性向上に配慮しております。
- ・大雨への取組み: ハザードマップにより浸水レベルより建物フロアレベルを上げ、災害に強い建物としております。
- ・新潟のまちなみへの取組み: 新潟の風土や歴史性を重んじ、高架化事業による新たなまちなみや景観に配慮した建物デザインとしております。

CASBEE®新潟

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.1

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)東日本旅客鉄道株式会社 新潟支社ビル	階数	地上8F
建設地	新潟県新潟市中央区花園1-1-6	構造	S造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	380人
地域区分	5地域	年間使用時間	5,880時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年11月 予定	評価の実施日	2018年8月21日
敷地面積	3,297㎡	作成者	長谷川 高志
建築面積	1,602㎡	確認日	2018年8月25日
延床面積	11,297㎡	確認者	伊地知 雅博



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂温暖化影響チャート

標準計算
①参照値 100%
②建築物の取組み 88%
③上記+②以外の 88%
④上記+ 88%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.4

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.0

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
本計画は、連立高架化事業に伴うJR東日本新潟支社ビルの移転計画です。「結び拓くワークプレイス」をコンセプトに、人と人・もの・情報、現場と支社、会社と地域を結び、共に新たな未来を拓く結びの場を創ります。		
Q1 室内環境 駅周辺市街地の新たな高架橋に隣接する建物のため、外皮や開口部の断熱性・遮音性に配慮しております。さらに、外周部にぐるりと配置した連続窓により昼光率を高め、冬季の執務環境を向上させております。	Q2 サービス性能 基準ワークスペースは片コアによる7コア化とし、空間の自由度やリフレッシュエリアの適正配置により、コミュニケーションを促す計画としております。また、支社ビル機能としての耐久性やメンテナンス性にも配慮しております。	Q3 室外環境(敷地内) 外観は斬新なデザインを避け、周辺環境と調和した落ち着いたデザインとしております。また、計画道路に沿って開いた外構計画や低層部の外装デザインにより新たなまちなみや景観へ配慮しております。
LR1 エネルギー 高効率な空調設備やLED照明の採用により省エネルギー化に努めております。	LR2 資源・マテリアル 共用部の内装には新潟産の木材を使用し、地球温暖化・森林保護に寄与しております。	LR3 敷地外環境 高架化により新たに整備されるインフラに則し、将来のまちの発展を見据えた計画としております。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される